

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月31日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22653102

研究課題名（和文） 持続可能な高校教育改革の実践と構造に関する臨床的研究

研究課題名（英文） A clinical study of sustainable practices and their structure in high school educational reforms of Japan

研究代表者

菊地 栄治（KIKUCHI EIJI）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：10211872

研究成果の概要（和文）：

持続可能な高校教育改革の実践と構造について、事例研究と質問紙調査等を通して、以下の知見が得られた。(1)「育成すべき力」は高校階層によって強く規定されており、生徒の現実をふまえた目標設定が必要となる、(2)教員自身が他者と向き合い自己変容しつつ共通の成功体験を重ね「学習する組織」を創ることが鍵を握る、(3)他校に示唆を与えるような改革を実践している高校がきわめて限定されているという事実をふまえ、地域や行政機関などの社会資本を活用することでシステム全体として持続可能性を高めていくことが重要である。

研究成果の概要（英文）：

Concerning practices and structures of sustainable reforms in high school education, the case study and the questionnaire survey give following facts; (1) "Abilities to be nurtured" are influenced by the stratum of high school strongly, so that it is necessary to set goals based on students' realities. (2) The crucial thing is that teachers create "learning organization" by piling up common success experiences through facing each others and transform themselves. (3) It is important to enhance the sustainability as the whole system by exploiting social capital (i. e. local community, administrative agencies), based on the fact that only the limited high schools perform their reforms that give suggestions to other schools.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	0	1,100,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,600,000	450,000	3,050,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：持続可能性、高校教育改革、エンパワメント、臨床、主体変容、公共圏

1. 研究開始当初の背景

申請者は、1990年代以降、継続的に先導

的・内発的な高校づくりに寄り添ってきた。

多くの高校にとって示唆的な知見を当事者

である高校教員自身が紡いできた。そのこと自体は、わが国の高校教育の質的充実にとって大きな意義を持っている。とはいえ、他方で、「学力低下論」に端を発する一元的で拡がりや深まりのない議論が、旧態依然とした閉じた高校教育を正当化することになった。この動きは、内発的・創造的な高校づくりにとってマイナスの影響しか及ぼさず、若者たちをエンパワーする取り組みの持続可能性(sustainability)を低下させる結果をもたらしたと考える。内発的な改革のエネルギーを摘み取るのではなく、それをさらに押し広げプラスの価値を付け加えて行くことがきわめて重要な課題であると考え、本研究課題を着想するにいたった。

2. 研究の目的

高校教育改革に焦点づけられた臨床的研究は、教育研究の中でも未開拓の研究領域のひとつである。現在、教育環境の質的変容に伴って生徒の現実が著しく変貌し、高校教育のあり方が改めて問い直されるべき状況にある。にもかかわらず、改革は散発的で局所的な営みにとどまり、解決の糸口がつかめない。本研究の目的は、高校教育改革実践の構造的・臨床的な問い直しを行い、内発的な試みが促進／阻害される社会的・組織的要因を探るとともに、持続可能な改革が成り立つ諸条件を理論的・実証的に同定することにある。「持続可能性」という視点から高校教育改革の理論と実践を再構築することによって、教育研究が当事者のエンパワメントを促す的確な知見を提供することができる。さらに、

多様な方法を用いた現実との臨床的対話を通して、学問自体が鍛えられると考える。

3. 研究の方法

(1) 高校教育改革言説に関する歴史分析

高校教育改革についての戦後の諸言説を四つの時期（戦後改革期、大衆普及期、構造形成期、縮小調整期）に区分して理論的に整理する。各期に特徴的な複数のアクターがどのような高校教育像を描き、どのような改革をどのように主導・実行していったかを考察していく。

(2) 持続可能な高校づくりに関する質問紙調査

全国の公立高校（全日制および定時制課程）を対象とする郵送自記式質問紙調査を実施し、データについて、統計的な分析を加える。とくに、状況（学力を含む）の組織的定義、改革実践、および持続可能性の条件定義…の3点について焦点を合わせて質的・量的に分析する。

(3) 持続可能な改革実践事例についてのインタビュー調査研究

持続可能な改革実践が成り立つための組織的・制度的工夫を行った改革実践校について、継続的にフィールドワークを行う。とくに、改革の契機と初期の動き、実践の具体的な実施状況、実践を通しての生徒への影響、教師自身の自己変容、持続可能な取り組みするための組織的条件、改革を支援するための社会資本の実態と効果、を軸に事例研究を積み重ねて行く。

(4) (1)～(3)の知見を総合的・批判的に吟味

し、持続可能な高校教育改革についての理論的な構築を試みる。

4. 研究成果

3年間の主な研究成果は、以下の通りである。

(1) 全国の公立高等学校（全日制および定時制課程）を対象とする「持続可能な学校改革に関する調査」（質問紙調査）を実施し（回答者は、各学校長）、回収されたサンプル・データの分析および事例研究の結果から以下の知見を得ることができた。

(a) 高校組織としての意思決定プロセスについてたずねたところ、全体の35.6%は、校長主導のスタイルを採っていることがわかった。内発的に組織成員を巻き込みながら持続可能な取り組みを行っている高校は、全体の4分の1程度と少数にとどまっている。

(b) 他校の参考となるような高校独自の取り組みを実施している高校は、全体の3分の1強と少数にとどまっている。とはいえ、改革実践校は、自らの実践が比較的大きな成果を示し、「持続可能な改革」であると自己評価している。改革実践校と非実践校の分極化が生じている可能性が示されている。「多くの高校はなぜ持続可能な改革に着手できないか」という点についての構造的な分析が不可欠である。

(c) 高校が組織として生徒に身につけさせようとしている力は、高校階層ごとに明確に異なっている。第Ⅰ層（「進学校」）では「志望大学に合格できる力」を筆頭に挙げる高校が全体の3分の1強を占めたが、第Ⅴ層では教

科の基礎学力・生きる力・基本的な生活習慣に重きが置かれていた。また、中堅校では突出した項目が少なく、特色化が難しいことがわかる。中央では、ひとくくりにした共通教養（コア）論が語られる傾向があるが、高校自体の多様な現実を見据えることが持続可能な実践の条件となる。

(2) インテンシブな事例研究を通して、以下の知見を導くことができた。

(a) さまざまな改革の出発点は、生徒の切実さに向き合うことにあった。抽象的な理想の生徒像を基準にして生徒の実態を裁断するのではなく、生徒のありようから立ち上げられた具体的なコンセプトを学校組織成員全体で共有していくことから始められた。

(b) 「すぐれた生徒」の奪い合いではなく、受け入れた生徒にとって少しでもプラスになることを試みていく「エンパワメントの改革」が組織を鍛える糧となった。

(c) 一人ひとりの教師が思考停止に陥らず、自分自身のネットワークを生かしながら、結果的に学校の社会的資源を豊かにしていった。その過程で、生徒にとっても教師にとっても一定の「成功体験」を経験することが重要な意味を持っていた。

(d) 教師自身が自分たちの言葉を鍛えていくこと、そして、それを軸にしながら「学習する組織」を形成し、結果として次代に伝えられる「組織文化」を醸成していくことが豊かな取り組みの支えとなっていた。

5. 主な発表論文等

〔図書〕（計1件）

菊地栄治『希望をつむぐ高校—生徒の現実と
向き合う学校改革—』岩波書店、2012年、
177頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菊地 栄治 (Eiji Kikuchi)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：10211872